

MACD

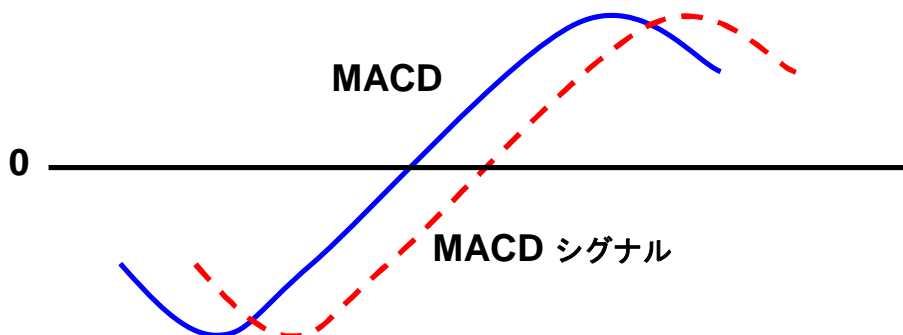
(マックディー Moving Average Convergence/Divergence Trading Method)

1. MACD の性質

トレンドフォロー系のテクニカル指標で、その方向性や乖離などに着目して売買のタイミングを計るものです。(ジェラルド・アペル氏により考案)

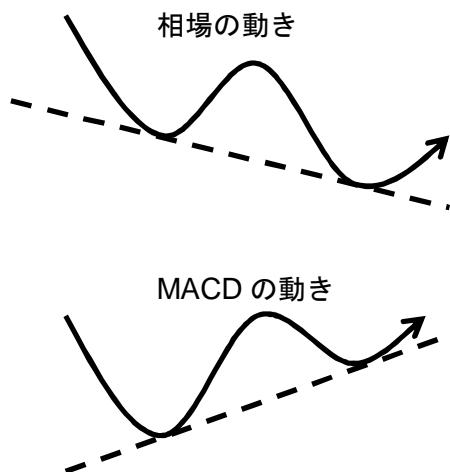
指数平滑平均 (EMA : Exponential Moving Average) から計算された「**MACD**」と「**MACD シグナル**」の2本で構成されます。

2本のEMA 価格差の伸縮に着目し、**トレンドの方向およびその転換の兆候を把握**するために用いられます。



大きなトレンドが発生している時に、MACD が相場の流れと逆行した場合 (**逆行現象 : ダイバージェンス**) は、相場が天底に近いことを示します。

たとえば相場が下降しているときに MACD が上昇し始めた場合は、近い将来相場が底を打つ可能性があると言えます。



相場は下値を切り下げる動きをしているにも関わらず、MACD は逆に下値を切り上げている場合、逆行現象 (ダイバージェンス) とい**い買いサイン**と言われる (売りサインは逆の動き)。

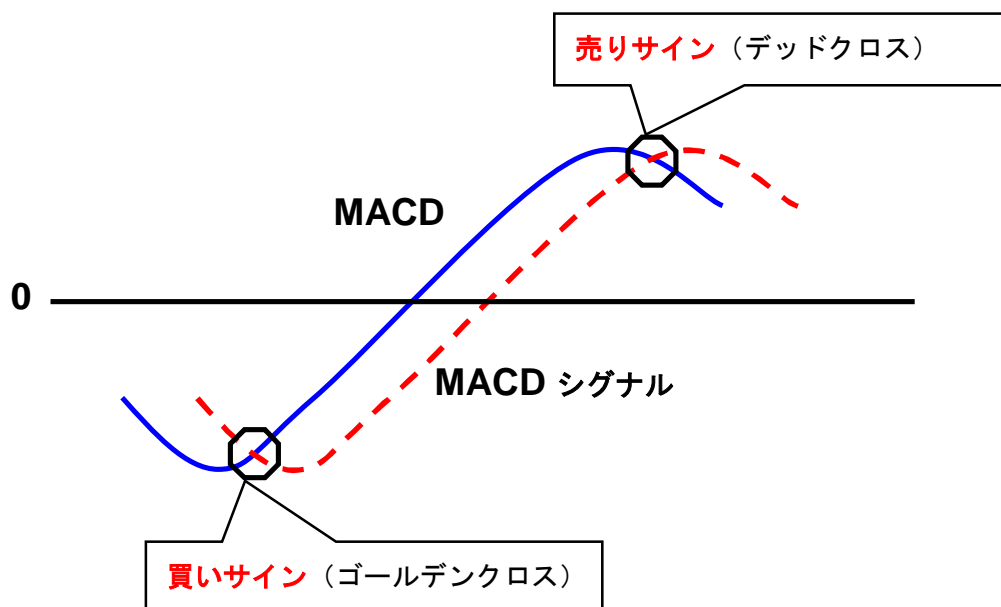
2. 買いと売りのタイミング

買いサイン

1. 先行する MACD が遅行する MACD シグナルを下から上に抜いた時。
(ゴールデンクロス)
また、その後 MACD・MACD シグナルともにゼロのラインを上回れば、信頼度が増す。
2. 相場が下降しているときに MACD が上昇し始めた場合
(逆行現象：ダイバージェンス)

売りサイン

1. 先行する MACD が遅行する MACD シグナルを上から下に抜いた時。
(デッドクロス)
また、その後 MACD・MACD シグナルともにゼロのラインを下回れば、信頼度が増す。
2. 相場が上昇しているときに MACD が下降し始めた場合
(逆行現象：ダイバージェンス)



3. 数式・その他注意点

MACD = 基準線 - 相対線

基準線 (EMA) : 過去 12 日 (週・月) 間の終値指数平滑平均

相対線 (EMA) : 過去 26 日 (週・月) 間の終値指数平滑平均

$EMA = B + \alpha (A - B)$ A : t 期の終値

B : (t - 1) 期における平均値

α : 平滑化定数 $0 \leq \alpha \leq 1$ $\alpha = 2 / (n + 1)$

n : 平均する期間

MACD シグナル = 9 日 (週・月) 間の MACD の移動平均線

基準線を 12 日、相対線を 26 日、シグナルに 9 日といった値がよく使われますが、期間は MACD の性質や動き方がよく分かった後、自分なりに工夫した方が良いと思います。